



TITLE:

館内めぐり 図書団地住宅難の嘆き

AUTHOR(S):

CITATION:

館内めぐり 図書団地住宅難の嘆き. 静脩 1965, 1(4): 8-8

ISSUE DATE:

1965-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/36255>

RIGHT:

しかしこの目録は自然科学の研究者にとってかなりの負担になっている学術雑誌の所在調査の労力を少しは軽く、また購入雑誌選択上の参考にもなりうるであろう。今後記述上の誤りや、掲載もれ、あたらしく購入を始めたものなどを逐次追加訂正する補遺版を刊行するとともに来年度以降ひきつづいて、人文科学欧文篇及び人文・自然の和文雑誌目録も計画されている。

館内めぐり

図書団地住宅難の嘆き

書庫掛

本学のすべての図書が受入掛で入籍され、その性格や役割が目録掛で評価されて、利用者に知識と情報を提供する奉仕者に育成されるとすれば、書庫掛はこの奉仕者に快適な住居と環境を与える団地の管理者であろう。

書庫という名のこの団地は本館では床面積 820 余坪の新、旧 2 つの書庫よりなっている。床面積 430 余坪の旧書庫は本館の蔵書 40 余万冊の内約 12 万冊と部局図書 13 万余冊の保存書庫として使われている。新書庫は床面積 399 余坪、そこに延長 825.950 cm の書架が設置されている。この書架上に日夜利用者に奉仕する 28 万余冊の図書が、びっしりと排架されて、住宅難を嘆いている。ぼう大なこの図書群から破損図書や汚損したラベルを探し出すことは相当疲れる。架上図書の排列整頓、ラベルの更新、和装本の入帙、題簽書入等も楽ではないが架上の図書を排列を乱さず、大量に移動することは全くの重労働である。しかし、どんな近代的図書館でも架上図書の移動は人間の原始体力による外はないであろう。

本館が最も誇りとする貴重書や、特殊文庫の災害対策は頭の痛い問題であるが、雑誌・新聞の製本、図書の修理等もまた大きな重荷である。現在、和洋の雑誌・新聞の種類は洋雑誌 592 (寄贈 572) 種、和雑誌 1,681 (寄贈 1,570) 種、計 2,273 (寄贈 2,142) 種、寄贈の欧字新聞 16 種、邦字新聞 69 (寄贈 57) 種である。予算の関係上全部を製本することができないので、学術的価値と利用度とに重点をおき昭和 38 年度には和洋の雑誌・新聞を計 395 種 787 冊を製本し、破損図書計 288 種 546 冊を修理した。ところで、ときどき製本期間のおくれが批難されるが、雑誌が製本されて利用者の手許に届くまでには会計的处理の外、種々の事務的手続を経なければならない。利用者の不満もよくわかるが、この間の事情も了承していただきたい。

…あとがき 閲覧室の窓からさし込む日の光に、もう十分春が感じられる。そして今年も多くの人が卒業されるが、先ずその人たちに「オメデトウ」を申し上げよう。しかし、そうはいうものの、今まで閲覧室においておもしろいおもしろい姿体で読書されていたものが、急に消えるとなると喜びの中にも一寸淋しいものを感じる。卒業後は、学んでこられた理論的なものを実践へと移してゆかれるのであろうが、図書館で学習されたものも大きく役立ててほしいと願うとともに、そのことから今後図書館がより利用しやすいもの、学習によってより高いものを得られるよう図書館的な配慮の必要性を改めて考えさせられる。私達自身のどのような努力があつたとしても、その中に利用される方々の声が反映されていなければ、正しいサービスとはならないことも自覚しよう。

願わくば習慣として、卒業を期に後輩へ申し送られるいくつかの事項の中に、図書館のことが一つでもあればと思う私達である。(M・F)